

創立 10 周年記念セミナー開催

～NPO 法人シビルサポートネットワーク～

代表理事 辻田満（昭和 46 年卒）

2004 年中央大学土木同窓会の多大なるご支援を頂き NPO 法人シビルサポートネットワーク（CSN）は設立されました。設立発起人 34 名中 18 名が中央大学関係者（茨木先生、岡内先生、斎藤先生、平野先生、舌間氏（当時同窓会会長）等）で現在も 32 名中 14 名が中央大学関係者で構成されております。おかげさまで、創立 10 周年を迎えることが出来ました。この 10 年の歩みとテーマごとの取り組みをご報告させていただくことを目的に 2014 年 10 月 11 日創立 10 周年記念セミナーを土木・都市環境同窓会のご後援を頂き開催致しました。

思い起こせば 2005 年 11 月に防災科学研究所片山理事長と東京大学目黒教授をお迎えして 5 号館 5533 教室で盛會に設立記念シンポジウムを開催して早いもので 10 年が経過します。シンポジウム終了後に開催しました懇親会には岡内教授、東京大学伊藤教授らにご出席頂きましたことは今となっては本当に懐かしく思い出されるひと時でした。また、2008 年 8 月には中央大学学会のご後援を頂き第 1 回オープンセミナーを駿河台記念館で開催した懇親会では、当時の串山会長、舌間名誉会長ら多くの同窓会の諸先輩が参加され楽しい懇談をしたのが昨日のように思い出されます。2009 年 5 月に建設系の事業型 NPO 活動が土木学会のシンポジウムで取り上げられて当 NPO が活動を報告しました。それがきっかけで今年土木学会の 100 周年記念事業の一環として設立された NPO 法人シビル NPO 連携プラットフォーム（CNCP）の設立にも参画し現在 CNCP の理事としても活動しております。

当 NPO が設立された当時は NPO 法が公布されて 10 年で、未だに NPO と言えばボランティア活動と思っている認識の中で設立当初から事業型 NPO を目指した取り組みはまだソーシャルビジネスなる言葉も一般的ではなかった時代には稀有な存在であったと思います。また、周りを見渡してみても当時は建設系 NPO に関わっている方は見当たりませんでした。

2012 年 4 月土木学会に建設系 NPO を支援する中間支援
平成 26 年 11 月 [8]



設立記念シンポジウム（5号館 5533 教室）2005 年 11 月



懇親会風景（駿河台記念会館）2008 年 8 月



土木学会講堂にて講演風景 2009 年 5 月

援組織を創設する準備組織として建設系 NPO 連絡協議会が設立され、土木学会で私が CSN の活動を講演したことがきっかけでこの組織の設立発起人として活動することとなりました。そこに建設系 NPO として活動している 30 数団体がメンバーとして加盟されました。発足当初私たちは建設系 NPO の活動現況は良くわかりませんでした。また、NPO の活動を取り上げた多くの資料においても建

設系 NPO の姿は見当たりませんでした。しかし、加盟した 30 数団の活動内容を見ることによって建設系 NPO の活動自体が決して皆無であったのではなく、過去に相当の活動を展開してきているにも関わらず建設系 NPO の活動は広く社会に顕在化することなく従来の市民活動やボランティア活動と一括りにされて特筆されてこなかっただけであったことが明らかとなりました。また、建設系 NPO の活動内容を分析してみると政策提言活動や市民啓発活動、事業型活動が著しく少ない現況も明らかとなりました。

建設系 NPO 連絡協議会では、今後立ち上げる中間支援組織の中で事業型活動を行うにあつての課題や問題点を探る目的で事業試行分科会が発足し、私その分科会長として取り組みました。その結果、今後取り組むべき多くの課題や問題点が得られました。特筆すべき課題は、どの試行事業においても推進するに当たって大きな障害となったのは事業を進める上でのパートナー探しでした。建設系 NPO は社会基盤やインフラを取り上げたテーマが多く、これには行政との連携が不可欠でした。現実にはどのテーマも試行事業期間の大半がこのパートナー探しに費やされたのでした。大きな要因としては建設系 NPO の社会的認知度が極めて低いと同時に事業担当 NPO の知名度がないことでした。

2 年間の建設系 NPO 連絡協議会の活動を経て 2014 年 3 月に「シビル NPO 連携プラットフォーム (CNCP)」が誕生しました。私も CNCP の事業化推進部門の担当常務理事としてこれからも関わっていくことになりました。今後のシビル NPO の活動は、団塊世代のシニアデビューの

潮流の流れの中で、確実に存在感が増すとともに新しい公共や共助社会づくりを担うサードセクターとしてその役割がより明確になっていくこととなります。シビル NPO を構成する人材の多くはプロフェッショナルのエンジニアとしてインフラ・まちづくりに従事してきた専門の技術や多くの経験を有した専門家であり、間違いなく今後シビル NPO が社会を変える大きな存在として位置づけられてくるでしょう。新しい公共や共助社会づくりの取り組みは今後、全国至る所のインフラ・まちづくりの主流になっていくことは間違いのないことと思います。しかし、シビル NPO が補完からその主役の一人へと変わっていくためには、社会の制度や仕組みを変えていくことが必要で、それには CNCP が個々の組織では難しかった政策提言や市民啓発を社会に発信しシビル NPO が行政・企業・大学と更なる連携が可能となる活動をしていかなければならないと思います。シビル NPO が補完からその主役の一人へと変わっていくためには、まだまだ多くの困難が伴うことでしょう。

振り返ると NPO を立ち上げて 10 年の活動を経過する中で土木学会での活動や地域での活動等様々な NPO 活動に関わる機会と巡り合え、更にその活動が今後ますます発展していく大きな可能性にあふれている環境の中で、生涯現役として NPO 活動にこれからも従事できることに大きなやりがいを感じています。今まで CSN の活動を支えてくれた多くの同窓生の皆様と支援者の皆様から感謝すると共にその支援に報いる活動をこれからも継続していきたいと思っています。



NPO 法人シビルサポートネットワーク創立 10 周年記念セミナー (2014 年 10 月 11 日)